

Rich ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第165号

nanae historical
museum collection

ななえ古写真物語 VOL. 165

変貌する自然

緑化する駒ヶ岳

昭和10年ころか

駒ヶ岳（馬の背付近）



全国に駒ヶ岳という山はいくつもあるが、こと道南地域では、森町と鹿部町、そして七飯町にまたがって広がり、眼下に大沼湖沼群を配する駒ヶ岳をイメージする人が多いだろう。

天を衝く剣ヶ峰となだらかに傾斜する馬の背、見る場所によって別の山塊にも感じる特異な姿で、近年は緑に覆われた山というイメージを持つ人も多くなったかもしれないが、今なお活動を続けている火山であることは忘れてはならない。

地質学の研究成果では、現在の大沼湖、小沼湖などの景勝は、江戸時代に起こった大噴火（1640年）によって、折戸川がせき止められて出来たというのだから、誕生から400年も経っていない計算となり、湖底から縄文土器破が拾えることから、当時は、陸地だった可能性が高いことを示唆している。

私たちは、恒久的に変わらないことが、価値のある自然だと思いがちだが、自然は突如として変貌する力を持っている。駒ヶ岳でいえば、江戸時代の噴火の時に、山頂部分が崩れたことにより、今の姿になったと考えられ、それ以前は富士山のような形だったと推測されている。崩れた山の一部は湖面に映える島々になった。

ここ最近特に、駒ヶ岳の山頂に緑が広がってきた印象を受けている。近くで観察するとあたり一面に草木が広がっている訳ではなく、ミネヤナギなどの低木が生えている箇所、風で種が飛ばされたのか、ほかの植物が定着し、部分的に緑地が点在している。これらが繋がって緑が面となり、やがて森になるのだと感じる。

しかし、この環境は大昔から続いているわけではない。なぜなら昭和4年（1929年）にも駒ヶ岳は大噴火しているからである。その時の様子がわかるのが上の写真で、山頂付近がゴロゴロとした岩石で覆われ、ほかに木々の気配はまったくない。岩石をよく見ると、溶岩が急激に冷やされることでできる、表面に多くのひび割れが残ったパン皮状火山弾が見られ、噴火の爪痕がまざまざと残されている。要するに、百年足らずで、現在の植生まで回復したのである。

突如にせよゆるやかにせよ、自然は必ず変化する。時には「災害」となるが、結果として景勝地という恩恵を受けることもある。大切なのは、ヒトが急激に自然を可変させないことである。

「昆虫採集記」を聴く日

夜の博物館第3夜のお題は「昆虫採集記」。道南虫の会の小松利民氏をお招きしました。「まずは気楽に聞いて下さい。」と受講者の皆さんに優しく語りかけ、講座がスタート。小松氏は蛾の専門家で、歴史館にも標本を寄贈されている方です。70歳を超えた現在も精力的に採集をされています。お話は昆虫少年との出会いから始まり、ヨーロッパでは蛾と蝶はあまり区別しないこと、いろいろな採集法や実物の採集用具の紹介、標本の作り方、最後は、日本の博物館の現状や地方博物館に期待することなど多岐に亘った興味深いお話を聞くことができました。特に希望者がオキナワカラスアゲハの展翅（てんし）を体験する素敵な計らいは、他の受講者の皆さんも間近で見守りました。幼い頃からの昆虫への興味が、やがて発見した蛾に自分の名前が学名につくまで、氏の長く深い情熱を熱く語る姿に、誰もが耳を傾けた夜でした。



巡回展が始まります

緊急事態宣言で少し早く終了した特別展「縄文のカタチ」で展示した資料の一部をせたな町、上ノ国町、森町、八雲町で巡回展示します。それに伴い、せたな町へ歴史館から職員が赴き、展示作業をしました。普段とは勝手が違う展示室で、せたな町さんの学芸員の方と作業をするという初めての経験。持参した道具を用い、スペースに合わせて資料を納め、空間を埋めていく作業は、思いのほか大変でした。展示作業は、蓄積された技術の他、機転や知恵も必要だと思います。それぞれが美しい展示を目指し、作業を終えた後に見た日本海の美しい夕日と浮かぶ月に心を癒され、長い一日が終わりました。



10月の予定

1	金
2	土
3	日
4	月
5	火
6	水
7	木
8	金
9	土
10	日
11	月
12	火
13	水
14	木
15	金
16	土
17	日
18	月
19	火 ピチャリ発行予定
20	水
21	木
22	金
23	土 ジュニア探検クラブ
24	日
25	月
26	火
27	水
28	木
29	金
30	土
31	日

※10月の休館日はありません

今年の変化朝顔

花銘は「青桔梗渦葉
紺糸覆輪桔梗八重」。
館の玄関前で咲いて
います。



編集後記 ～tawagoto～

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言をうけ、9月30日まで臨時休館となった。開館以来、これほど長く休館になったことはない。とはいっても、職員は勤務している。来館者が来ないなら、さぞかし暇だろうと思われそうだが、これまで時間がなくて中々できなかったフィールド調査や館内清掃、未登録資料の整理など、やることは山積している。静かに地道な作業をするも、いつまで続くかわからない社会情勢に惑わされている。（やまだひさし）

Pichari ～ピチャリ～
第165号

令和3年9月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp